

京都中央信用金庫

発行

2015.6

京都中央信用金庫 広報部

〒600-8009

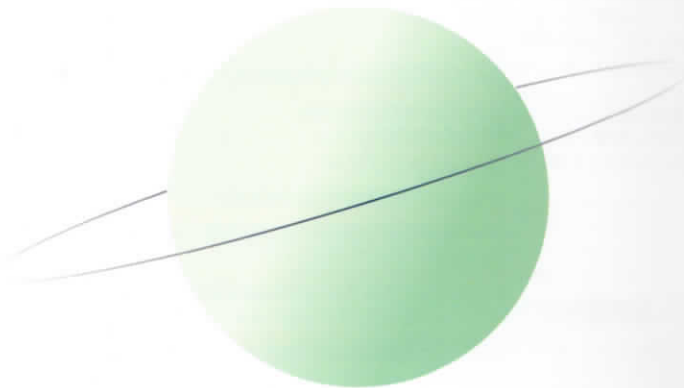
京都市下京区四条通室町東入函谷絆町91番地

TEL(075)223-8385/FAX(075)223-2563

URL <http://www.chushin.co.jp>

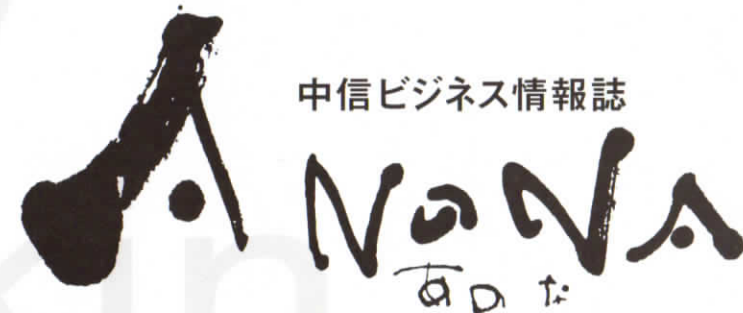
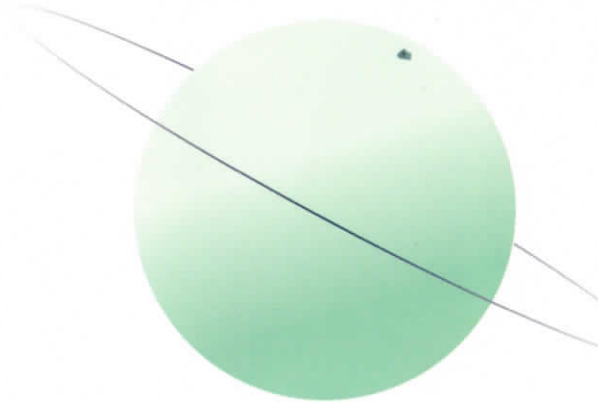
印刷

佐川印刷株式会社

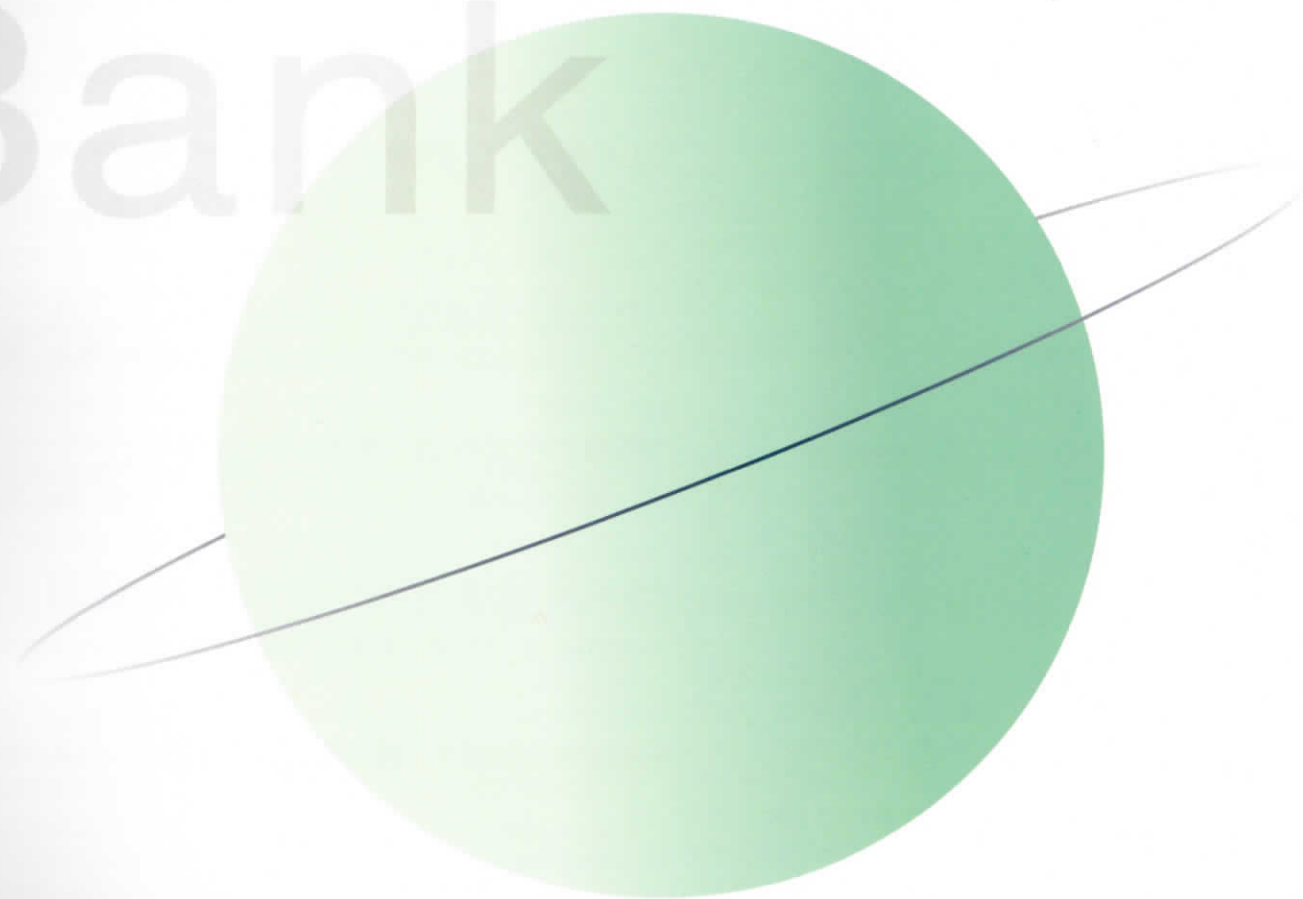


この報告書は環境に配慮し、植物油インキを使用しています。

Kyoto  
Chuo  
Shinkin  
Bank



2015 No.120



京都中央信用金庫





## 「和傘の技術を礎に 新発想で世界へ」

株式会社 日吉屋  
代表取締役(五代目当主)

西堀 耕太郎氏

### 京都でたった一軒の和傘製造元

生活用品としての和傘はすでに稀少なものとなって久しく、日本で和傘づくりを営むのは全国見渡してもわずか十軒ほどです。そのうち京都に残る和傘製造元は当社日吉屋一軒だけになりました。観光地などで土産物として売っている和傘はたいてい中国などの外国製です。

かつてはどの町にもあった傘の専門店が、和傘、洋傘を問わず姿を消しました。高級洋傘なら百貨店、安くてお洒落な洋傘は雑貨屋、ビニール傘ならコンビニで購入します。数百円のビニール傘などは、必ずと言っていいほど、どこかに忘れるか置いてきてしまい、ほとんど使い捨て商品です。

日本は、傘の消費量が人口比で世界一です。年間1億4000万本の洋傘が売れますが、その60%がビニール傘です。そんな現状ですから、着物姿にビニール傘だとしても、これはしかたありません。蛇の目傘のほうが似合いますよ、と心の中でつぶやいています。

### 公務員から転身、和傘職人に

私は和歌山県新宮市の出身で、新宮市役所の観光課に勤務していました。日吉屋は妻の実家です。このような縁がなければ和傘を手にとることなど生涯なかったと思います。初めて番傘を目にしたとき、純粋に「恰好いい!」と感心しました。

しかし、和傘の需要はすでにごく限られたものになっており、日吉屋においても和傘の受注は事業全体の2割に過ぎず、ほ



ランプシェード「古都里」



照明施工: JR京都駅



ランプシェード「MOTO」

ぼ、廃業寸前の状態でした。

和傘づくりは非常に熟練を要する仕事で、技術的に難易度も高いものです。それを日吉屋は持ってあり、活かさない手はない、と私は考えました。観光課という部署に勤務していた経験から、インターネットを利用し国内外にアピールすることをまず思いつき、日吉屋のホームページを作成して和傘の販売を試みました。すると、安いとはいえ番傘や蛇の目傘が売れるようになりました。

私自身も、三代目、四代目の手仕事を間近で見習い、和傘職人としての修業を積みました。難しい仕事ですが、覚えれば覚えるほど和傘の魅力を実感する日々でした。

### 和傘の構造を活かした照明

和傘のルーツは中国から伝来した天蓋状の覆いで、もともとは閉じない形状でした。傘を開閉できるようになり、一般にも使われるようになったのは江戸時代中期以降です。この頃、製造分業体制が確立し、現在の傘の原型ができあがったと言われています。江戸時代の浮世絵には、しゃれた傘を差す美人画のほか、雨降る中を傘を差し急ぐ町人が描かれています。日用品としてだけでなく、芝居や踊り、野点など芸能や文化的シーンでも用いられ、日本人の物心両面を満たす、美意識あふれる工芸品として発達していききました。

とりわけ、和傘のもつ開閉の仕組み、竹の特性を利用した骨組の機構は非常にシンプルながら複雑な動きを可能にする高等技術です。何百年と伝わるあいだに、その時代に



照明施工: スターバックスコーヒー

改良が加えられ、比類のない高度な構造を維持してきました。

和傘屋として生き残るためにはこの構造を使うほかないと思いましたが、最初申し上げたように和傘は衰退の一途。現代のライフスタイルに照らしても、再び和傘が普及する可能性はほとんどありません。

傘づくりの工程には糊を乾かす天日干しがあるのですが、ある日、傘に陽光が透けるさま、和紙を通した光の優しさ、竹骨がつくる幾何学的な陰影を見て大変美しいと感じ、これだと思いました。

こうして「古都里(ことり)」が誕生しました。和傘の仕組みを応用した折り畳み可能なランプシェードです。ペンダント型、スタンド型、あらゆるタイプの照明器具に展開しています。

### 「伝統は革新の連続」だから 今の仕事ものちには「伝統」に

「古都里」に続いて「MOTO(モト)」というシリーズを開発しました。イタリア語で「動」を意味するネーミングどおり、シェードのフレームを好みで開閉でき、照明に動きをもたせられます。素材はスチールとABS樹脂を用い、洗練された空間に映えるデザインに仕上がっています。

こうした仕事を通じてつくづく思うのは、伝統とは、連続と穏やかに流れる川などではないということです。

和傘は伝統工芸品です。しかし、最初から伝統工芸品だったものなどありません。どの工芸品にもスタート地点があり、その時点と今では製法も意匠も雲泥の差があります。先人たちはその時代の要請に応じ、あるいは時代を先取りして技術革新を繰り返し、そのときどきに結果を出してきました。その連続そのものが「伝統」であり、最新の状態が「現在」です。

日吉屋は160年続く老舗ですが、160年前と同じことだけをしていたらとくに店はずぶれていたと思います。竹の職人や和紙の製造元とともに製造技術を磨いてきたからこそ今に至ることができました。

私の仕事はこの日吉屋の技術をもう一步先へ進め、より可能性を広げて後継に伝えることです。100年後にも「古都里」や「MOTO」を含む京和傘ならではの技術を「伝統工芸」として残すこと。「伝統は革新の連続」という言葉を日吉屋の企業理念として掲げ、新しいものづくりに挑戦しています。

### 日本の伝統工芸を海外へ

国内外のデザイナーやプランナーとのコラボレーションを通じて、改めて日本製品の質の高さを知ることになりました。伝統に裏打ちされた高度な技術はもちろん、生産から品質管理、物流面まで、日本の仕事は隅々まで行き届いています。結果、末端価格は高価になっても、世界にはその高い質を求める消費者層が確実に存在します。

2012年、「伝統は革新の連続」という企業理念を英訳しその頭文字をとったT.C.I研究所を設立しました。和傘や照明

器具の販売展開で得たノウハウとネットワークを活かして、さまざまな伝統工芸品の海外展開を図っています。

具体的には、ある伝統工芸品の技術に対し、各国のバイヤーから市場のニーズを聞き、消費者にアプローチするブランド・商品開発を進め、実際の売り場戦略までトータルな提案をしています。おかげさまで、日吉屋の成功例に関心が集まり、毎日多くの問い合わせがあります。今後、T.C.I研究所の役割が一層高まることを期待します。



幾何学模様を織り成す飾り糸



京都本店工房



京都本店工房



京都本店

### 会社概要

社名 株式会社 日吉屋  
創業 江戸時代後期  
法人改編 2003年10月  
事業内容 京和傘、和風洋傘、和風照明の企画製作・製造販売  
提灯、野点用品の販売、体験工房の提供など  
本社所在地 〒602-0072  
京都市上京区寺之内通堀川東入ル百々町546番地  
TEL 075-441-6644  
FAX 075-441-6645  
URL <http://www.wagasa.com/>